秋田県秋田市

市内遺跡詳細分布調査報告書

2001

秋田市教育委員会

序

本書は、平成12年度に実施した市内遺跡詳細分布調査の報告書です。

埋蔵文化財は地域の歴史を解明する重要な資料であり、貴重な文化遺産として保護し、未来へ引き継いでいかなくてはなりません。秋田市には、現在370箇所の埋蔵文化財包蔵地が登録されておりますが、近年、宅地開発や農業基盤整備などの開発事業が増加し、埋蔵文化財の保護が急務となっております。遺跡詳細分布調査は、それら各種の開発事業と埋蔵文化財保護との調整を図るための基礎となるものです。

本報告書はその調査結果をまとめたものであり、文化財保護活動の啓発と普及、そして学術研究のために活用していただければ幸いに存じます。

刊行にあたり、調査にご協力いただきました関係各位の皆様に感謝申し上げるとともに、今後とも埋蔵文化財の保護につきましてご理解くださいますようお願い申し上げます。

平成13年3月

秋田市教育委員会

教育長　石　黒　俊　郎

例　言

1　本報告書は、市内に所在する遺跡及び遺跡推定地における、開発事業などに伴い実施された平成12年度確認調査の報告書である。

2　確認調査は、秋田市教育委員会が調査主体となり、平成12年度国庫補助金並びに県費補助金の交付を受けて行った。

3　市内の確認調査及び本書の作成は、秋田市教育委員会文化課の安田忠市、伊藤武士、中川宏行が担当し、寺内地区の調査については秋田城跡調査事務所が行った。

4　出土遺物及び記録類は、秋田市教育委員会が一括保存する。

5　調査にあたっては、文化庁記念物課、秋田県教育庁生涯学習課文化財保護室よりご指導をいただいた。

凡　例

1　挿図の調査位置図については、主として秋田市都市計画図を使用し、一部事業関係で作成した図面を使用した。

2　挿図の縮尺と方位は不統一であり、各図ごとに縮尺・スケールと方位を示した。図中の方位は真北を示している。

3　挿図中の記号として下記を用いた。

　トレンチ―T　（調査地第１号トレンチについては１Ｔと表記）

　グリット―G　（調査地第１号グリットについては１Ｇと表記）

調査体制

調査主体	秋田市教育委員会
調査担当	文化課文化財担当
調査体制	秋田市教育委員会 文化課
	課長　小松正夫
	課長補佐　小国裕実
	文化財担当
	主席主査　鎌田照平
	主査　安田忠市
	主事　伊藤武士
	主事　中川宏行

目　　次

序
例　言
凡　例

第１章　事業の概要 …… 1

第２章　調査の記録

1　寺内地区老人ホーム改築工事予定地 …… 3

2　蛇野遺跡（広面地区無線基地局建設工事予定地） …… 5

3　寺庭Ｉ遺跡（太平寺庭地区住宅新築工事予定地） …… 6

4　広面・柳田地区宅地造成事業予定地 …… 7

5　湯沢台牧場遺跡（添川地区ゴルフ場造成事業予定地） …… 10

6　下新城長岡地区道路建設工事予定地（耳取Ｉ遺跡） …… 14

7　下新城西部地区圃場整備事業予定地（長岡遺跡） …… 17

8　上新城道川地区林道建設工事予定地 …… 21

9　下新城長岡・中野地区道路建設工事予定地 …… 23

第1章　事業概要

秋田市は、秋田県の中央部、日本海に面する秋田平野に位置している。市内には旧石器時代から近世までの遺跡が存在しており、秋田市では、埋蔵文化財の保護と開発事業に適切に対処するため、昭和61年から63年にかけて国庫補助事業として市内全域の分布調査を実施している。その後の遺跡の追加も含め、現在、370箇所の遺跡が確認されている。

平成12年度は、国と県の補助を受けて市内遺跡詳細分布調査事業を実施した。事業は周知の埋蔵文化財包蔵地または遺跡存在の可能性がある地域における民間開発事業、公共事業や圃場整備事業について、事前の事業照会と協議、現地分布調査による確認を経て、詳細な把握が必要な下記の箇所について試掘による確認調査を実施した。

詳細分布調査実施一覧表

No.	事業名・遺跡名	所在地	事業主体	事業概要
1	寺内地区老人ホーム改築工事	寺内字焼山	社会福祉法人秋田県厚生協会	老人ホーム改築
2	広面地区無線基地局建設工事・蛇野遺跡	広面字推子	東北セルラー電話株式会社	携帯電話用鉄塔建設
3	住宅新築工事・寺庭Ⅰ遺跡	太平寺庭	個人	住宅新築
4	広面・柳田地区宅地造成事業	広面字谷内佐渡ほか	山王土地株式会社	宅地造成
5	添川地区ゴルフ場造成事業・湯沢台牧場遺跡	添川字湯沢	秋田ゴルフパーク株式会社	ゴルフ場造成
6	下新城長岡地区道路建設工事・（耳取Ⅰ遺跡）	下新城長岡字耳取	秋田市道路建設課	道路建設
7	下新城西部地区圃場整備事業・（長岡遺跡）	下新城長岡字長岡ほか	秋田県秋田総合農林事務所	圃場整備
8	上新城道川地区林道建設工事	上新城道川	秋田市林務課	林道建設
9	下新城長岡・中野地区道路建設工事	下新城長岡・中野	秋田市道路建設課	道路建設

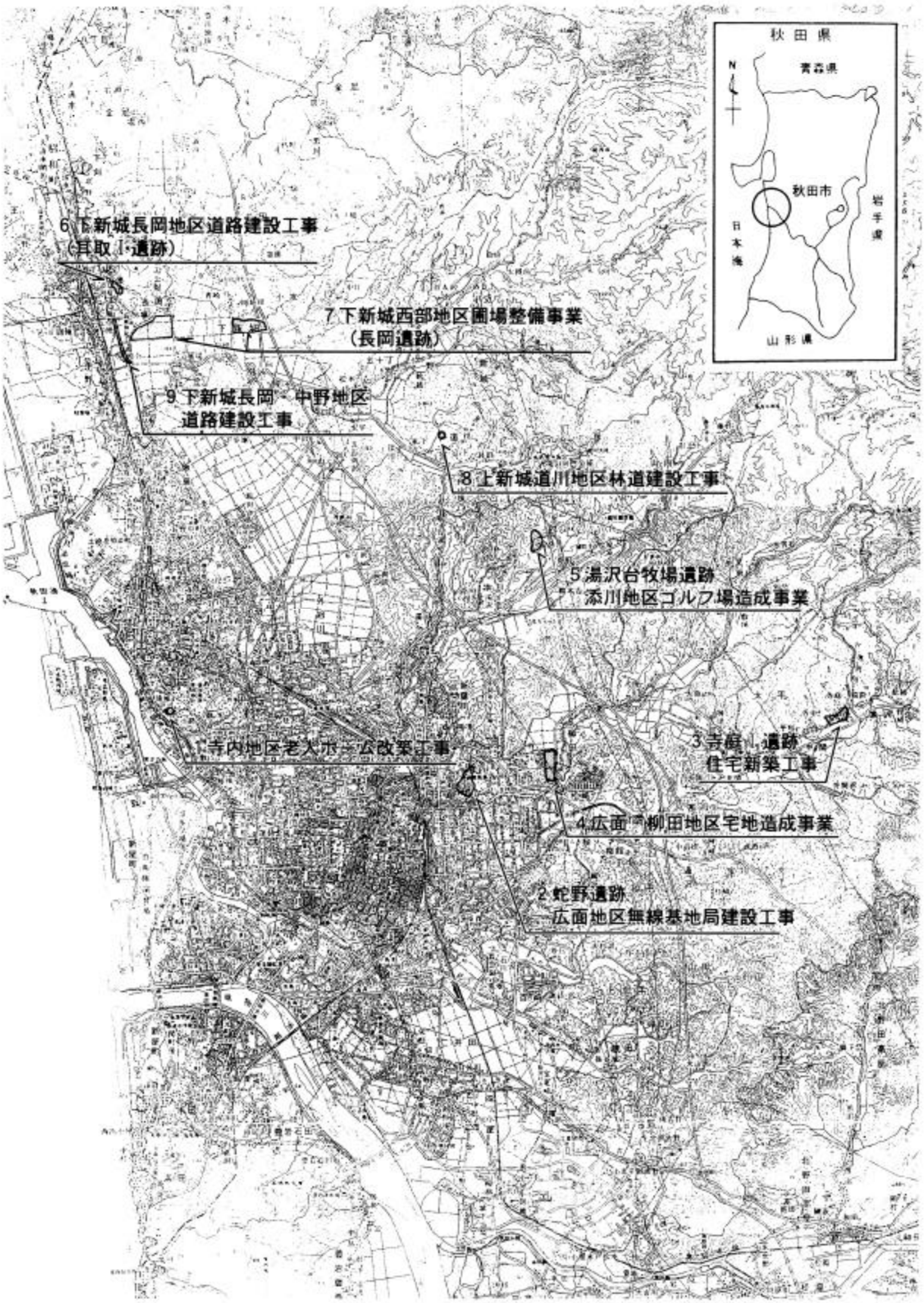


図１　市内調査地位置図（１／100,000）

第2章　調 査 の 記 録

（1）　寺内地区老人ホーム改築工事予定地（遺跡存在可能性地）

1　**調 査 地**　秋田市寺内字焼山、後城地内

2　**調査期日**　平成12年６月８日～６月９日

3　**調査面積**　178m²　（調査対象面積 約3,500m²）

4　**起因事業**　特別養護老人ホーム高清水寿光園改築工事

5　調査に至る経緯

社会福祉法人秋田県厚生協会は、寺内字焼山に所在する特別養護老人ホーム高清水寿光園の改築工事を計画していることから、秋田市教育委員会との間で埋蔵文化財に関する事前協議が行われた。協議の結果、平成12年５月９日付けで秋田市教育委員会に埋蔵文化財事前調査の依頼があった。分布調査の結果、隣接する遺跡や地形などからも遺跡が存在する可能性があると判断されたため、試掘調査を実施した。

6　立地と現況

工事予定地は、秋田市街地北部の高清水丘陵北西部の裾野で、周辺一帯は宅地化されて多くの住宅が建っている。日本海までは直線で約1.7kmで、周辺には日本海から吹き上げられた飛砂が厚く堆積している。調査地の東側約100mには国指定史跡「秋田城跡」の西外郭線が位置している。また、北西側には後城遺跡が所在し、昭和53年に発掘調査を実施している。

7　調査の概要及び結果

調査は、工事予定地に造成土や飛砂が厚く堆積していることから、幅３mのトレンチを９箇所設定してバックホーにより試掘し、遺構・遺物の有無について確認した。

調査地の層序は、位置によりやや異なり、西側（第１号～第３号トレンチ）は、第Ⅰ層暗褐色砂質土（表土・約10cm）、第Ⅱ層 暗黄褐色砂（造成土・２m以上）である。南側西寄り（第４号～第７号トレンチ）は、第Ⅰ層 褐色土（造成土・10～20cm）、第Ⅱ層 暗黄褐色砂（造成土・50～60cm）、第Ⅲ層 褐色土（造成土・1.5m以上）である。南側中央の第８号トレンチは、第Ⅰ層 暗褐色砂質土（造成土・60～130cm）、第Ⅱ層 黒褐色砂質土（旧表土・約40cm）、第Ⅲ層 暗黄褐色砂質土（１m以上）であり、南側東寄りの第９号トレンチは、第Ⅰ層 黒色土（造成土・約25cm）、第Ⅱ層 暗黄褐色砂質土（約1.6m）、第Ⅲ層 黒褐色砂質土（旧表土・約25cm）、第Ⅳ層 暗黄褐色砂（１m以上）である。土層の観察から、調査地南側の旧地形は東から西に向かって傾斜しており、乳児院建設の造成時に大量の土砂を盛土したものと考えられる。

調査の結果、第１号～第７号トレンチでは造成土が厚く堆積しているが、遺構や遺物包含層は確認されなかった。一方、第８号・第９号トレンチでは、造成土の下にわずかながら旧表土である黒褐色砂層が確認され、この下層に飛砂層面が厚く堆積しているが、やはり遺構や遺物包含層は確認されなかった。

以上のことから、調査地では遺構、遺物は確認されず、遺跡は存在しないものと判断した。

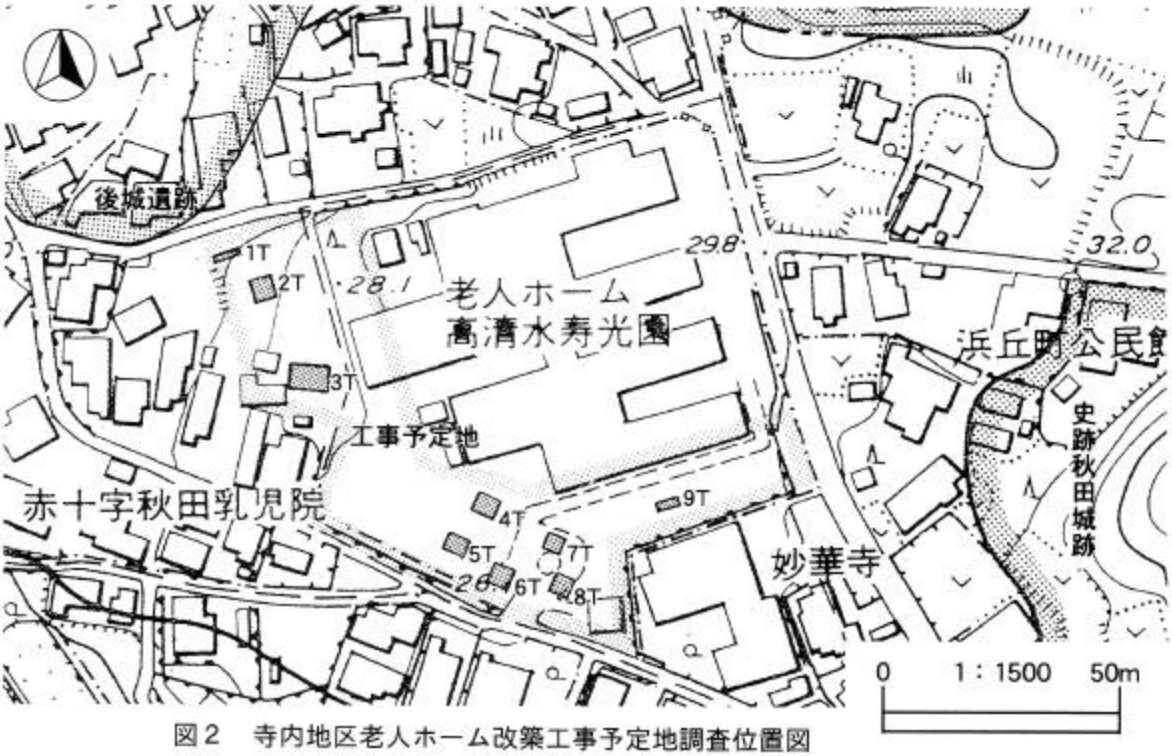
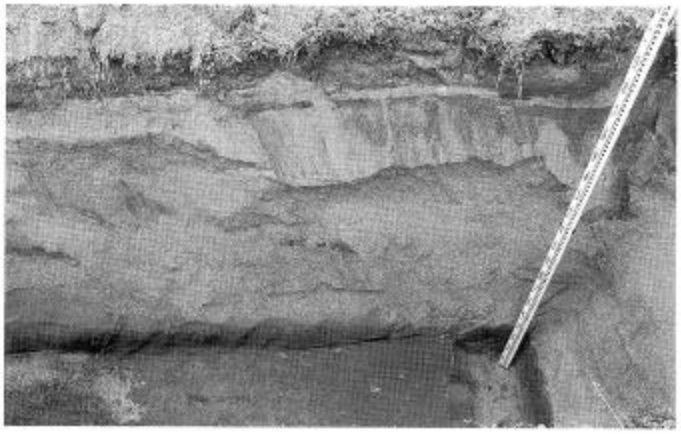


図２　寺内地区老人ホーム改築工事予定地調査位置図

調査状況



土層状況　　写真１

（2） 蛇野遺跡（広面地区無線基地局建設工事予定地）

1　**調 査 地**　秋田市広面字推子78－23

2　**調査期日**　平成12年６月21日

3　**調査面積**　44.25m²（調査対象面積 約249.9m²）

4　**起因事業**　無線基地局新設（鉄塔建設）工事

5　調査に至る経緯

東北セルラー電話株式会社は、蛇野遺跡が所在する秋田市広面字推子の丘陵上に無線基地局建設（鉄塔建設）工事を予定していることから事前協議があり、平成12年６月６日付けで秋田市教育委員会に埋蔵文化財事前調査の依頼および埋蔵文化財発掘の届出（文化財保護法57条２第１項）があった。これを受けて、秋田市教育委員会は分布調査による現況の確認と試掘による範囲確認調査を実施した。

6　立地と現況

工事予定地は、秋田市街地の北東側、手形山南の手形山台地（通称推古山）南側の平坦地で、標高50m前後の地点である。現況は畑地である。周辺からは石器・赤褐色土器が採集され、また、城館の土塁・空堀なども確認されている縄文時代、奈良時代、平安時代、中世の複合遺跡（蛇野遺跡）である。

7　調査の概要及び結果

調査は、工事予定地に東西方向に平行する形で幅1.5mのトレンチを２本を設定して、バックホーにより試掘し、遺構・遺物の有無について確認した。

調査地の基本層序は、第Ⅰ層 暗褐色土（表土・30～40cm）、第Ⅱ層 暗褐色土と明褐色粘土の混じり（畑の造成土・10～20cm）、第Ⅲ層 明褐色粘土・明黄褐色粘土（地山）である。

調査地全体を削平して畑地としたと考えられ、遺物包含層は確認されず、地山面から遺構も検出されなかった。また、遺物も発見されなかった。

調査の結果、遺構・遺物は発見されず、調査地内の発掘調査は必要ないものと判断した。

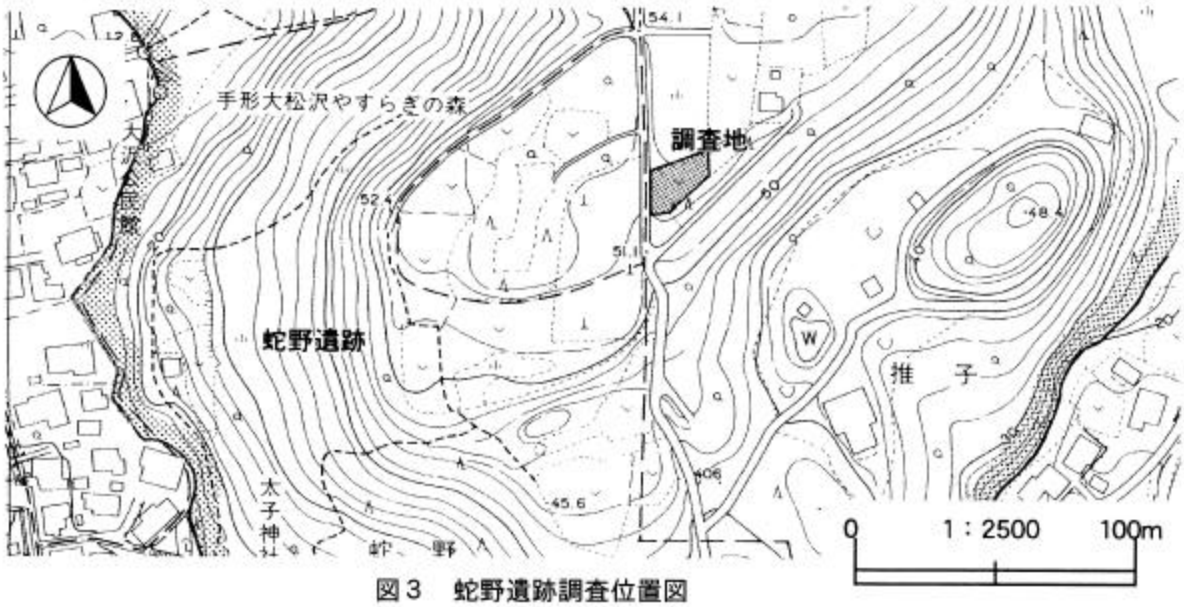


図３　蛇野遺跡調査位置図

（3） 寺庭Ⅰ遺跡（太平寺庭地区住宅新築工事予定地）

1　**調 査 地**　秋田市太平寺庭字寺庭157－３

2　**調査期日**　平成12年９月１日

3　**調査面積**　27.2m²（調査対象面積 約298.15m²）

4　**起因事業**　住宅新築工事

5　調査に至る経緯

秋田市太平寺庭字寺庭の個人より、寺庭Ⅰ遺跡が所在する秋田市太平寺庭の台地東側に住宅新築工事を予定していることから事前協議があり、平成12年８月24日付けで秋田市教育委員会に埋蔵文化財事前調査の依頼および埋蔵文化財発掘の届出（文化財保護法57条２第１項）があった。これを受けて、秋田市教育委員会は分布調査による現況確認と試掘による範囲確認調査を実施した。

6　立地と現況

工事予定地は、秋田市街地の東側、太平川右岸の河岸段丘上、羽黒山丘陵南東側の平坦地で、標高30m前後の地点である。現況は畑地である。周辺の段丘は縄文土器・石器が採集されている縄文時代の遺跡（寺庭Ⅰ遺跡）である。

7　調査の概要及び結果

調査は、東西約16.8m、南北約10mの方形を呈する工事予定地に、東西方向に平行する形で幅１mのトレンチを３本を設定し、バックホーにより試掘し、遺構・遺物の有無について確認した。

調査地の基本層序は、第Ⅰ層 暗褐色土（表土・30～40cm）、第Ⅱ層 暗褐色土と明褐色粘土の混合（漸移層・15～20cm）、第Ⅲ層 明黄褐色粘土（地山）である。

調査地全体が削平されて以来畑地となっていると考えられ、遺物包含層は確認されず、地山面にも遺構は確認されなかった。また、遺物も発見されなかった。

調査の結果、遺構・遺物は発見されず、調査地内の発掘調査は必要ないものと判断した。

図４　寺庭Ⅰ遺跡調査位置図

（4） 広面・柳田地区宅地造成事業予定地（遺跡存在可能性地）

1　**調 査 地**　秋田市広面字谷内佐渡、字境田、柳田字川崎地内

2　**調査期日**　平成12年９月27日～９月28日

3　**調査面積**　406.3m² （調査対象面積 約86,354.14m²）

4　**起因事業**　大学病院東地区土地区画整理事業（宅地造成事業）

5　調査に至る経緯

山王土地株式会社は、秋田市広面字谷内佐渡、字境田、柳田字川崎に宅地造成を予定していることから、秋田市教育委員会との間で開発に伴う事前協議が行われた。協議の結果、平成12年８月17日付けで秋田市教育委員会に埋蔵文化財事前調査の依頼があった。

分布調査による現況確認の結果、事業予定地は周辺に遺跡が存在することや地形等から遺跡存在の可能性があると判断されたため、試掘調査を実施した。

6　立地と現況

事業予定地は、秋田市街地の北東側、太平川中流右岸の自然堤防縁辺部からその西側かけて広がる秋田低地であり、標高約10mの沖積地である。現況は水田である。周辺の太平川左岸には佐渡端Ⅰ遺跡（縄文・平安時代）、佐渡端Ⅱ遺跡（奈良・平安時代）、佐渡端Ⅲ遺跡（縄文・奈良・平安時代）などが所在していることから、太平川の自然堤防縁辺部や周辺の微高地に遺跡が存在する可能性がある地域である。

7　調査の概要及び結果

調査は、事業予定地に幅1.7mのトレンチを12本設定し、バックホーにより試掘し、遺構・遺物の有無について確認した。

調査地の基本層序は、第Ⅰ層 黒褐色土（耕作土・30～40cm）、第Ⅱ層 褐灰色土（水田造成土・10～20cm）、第Ⅲ層 灰褐色土（水田造成土・20～40cm）、第Ⅳ層 黒褐色土・植物遺体混じり（自然堆積層・10～20cm）、第Ⅴ層 青灰色シルト（地山・20cm以上）である。

第Ⅳ層 黒褐色土・植物遺体混じり層の堆積は、調査地東側の一部のみで確認され、それ以外は直接地山の青灰色シルト層となっており、調査地は低湿地及び沼地であったと考えられる。また、褐灰色土は調査地南側のみで確認され、段階的な水田造成が行われた可能性が考えられる。

調査の結果、遺構・遺物包含層は確認されなかったが、調査地東側の水田造成土から土師器片・須恵器片が近現代の陶磁器片と共に出土した。それらの出土量はわずかであり、出土層位や出土状況などから、圃場整備時の土砂採取時または埋め立て造成に伴い混入したものと判断した。

調査の結果、調査地では遺物包含層や遺構は確認されず、遺跡は存在しないものと判断した。

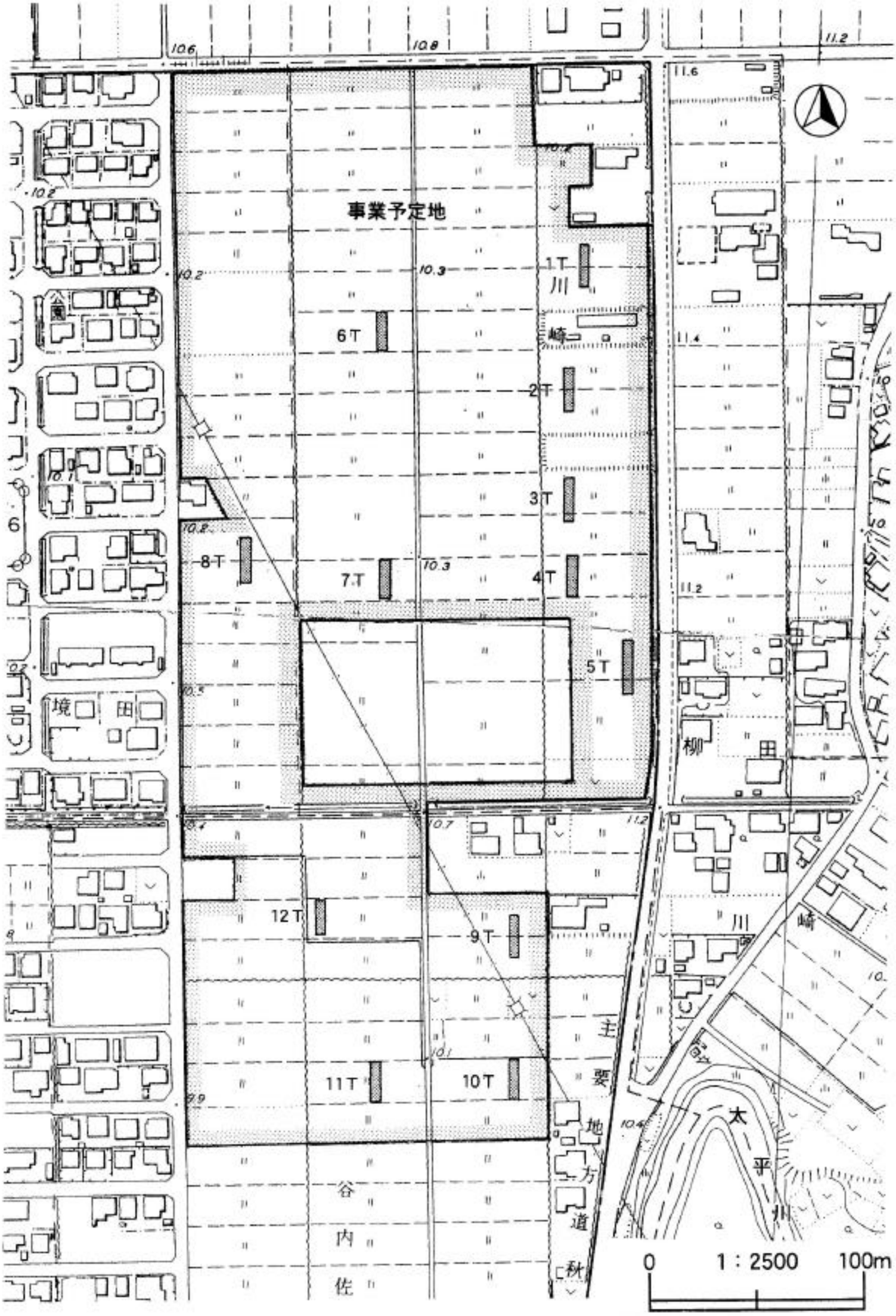


図5　広面・柳田地区宅地造成事業予定地調査位置図

調査地全景

第７号トレンチ調査状況

第９号トレンチ調査状況

写真２

（5） 湯沢台牧場遺跡（添川地区ゴルフ場造成事業予定地）

1　**調 査 地**　秋田市添川字湯沢25－１他

2　**調査期日**　平成12年11月14日～11月16日

3　**調査面積**　947.4m²（調査対象面積 約40,000m²）

4　**起因事業**　ゴルフ場造成事業

5　調査に至る経緯

秋田ゴルフパーク株式会社は、湯沢台牧場遺跡が所在する秋田市添川字湯沢の台地にゴルフ場造成事業を予定していることから、秋田市教育委員会との間で開発に伴う事前協議が行われた。協議の結果、平成12年11月７日付けで秋田市教育委員会に埋蔵文化財事前調査の依頼および埋蔵文化財発掘の届出（文化財保護法57条２第１項）があった。これを受けて、秋田市教育委員会は分布調査による現況確認と試掘による範囲確認調査を実施した。

6　立地と現況

事業予定地は、秋田市街地の北東側、旭川右岸の上新城丘陵部及びその南側の台地で、標高90mから100mの地点である。周辺は縄文土器片が採集される縄文時代の遺跡（湯沢台牧場遺跡）である。かつては牧場が営まれていたが、現在は荒地と原野となっている。

7　調査の概要及び結果

事業予定地のうち、周知の遺跡範囲内である南半の台地部分ついては、東西方向に幅1.6mのトレンチを３本（第１号～第３号トレンチ）、幅２mのトレンチ１本（第４号トレンチ）を設定してバックホーにより試掘し、遺構・遺物の有無および遺跡の範囲確認調査を行った。また、北半の丘陵側部分については、分布調査の結果に基づき、遺物が採集された箇所に東西10m、南北14mのグリッド（第１号グリッド）を設定して人力により試掘し、確認調査を行った。

調査地の基本層序は、第Ⅰ層 黒褐色土（表土・10～20cm）、第Ⅱ層 暗褐色土と明褐色粘土の混合（造成土・20～60cm）、第Ⅲ層 明黄褐色粘土・浅横色粘土（地山）である。南半については、旧地形を反映し、全体に東側で削平度合いが大きく、西側に行くに従い造成土が厚くなる状況が確認された。第２号トレンチ西側では、造成土下に植物遺体の混入する黒褐色土と灰褐色土の堆積が認められ、西側から東側に入る沢状の旧地形が確認された。

第１号トレンチ西側では、地山粘土層及びその直上の造成土下層から、石器の剝片が出土したため、トレンチを南北に７m、東西に12m拡張した。精査の結果、地山粘土層面及び粘土層中に石器製作時の剝片が出土した。遺物及び検出層位などから、旧石器時代の生活面が遺存していると判断され、遺物出土状況から遺存範囲は遺物集中地点を中心に直径約30mの範囲と考えられる。

南側平坦部のその他の部分については、全体が削平後造成されていると考えられ、遺構・遺物包含層は確認されなかった。また、遺物も発見されなかった。

北半については、第１号グリッド付近は表土が削平されていることから、直接傾斜した地山粘土層面を精査した。精査の結果、明黄褐色地山粘土層から石器の剝片が出土し、旧石器時代の遺物を包含する土層が遺存していると判断した。遺物出土状況から、遺存範囲は遺物集中地点を中心に直径約30mの範囲と考えられる。

調査の結果、事業予定地内において旧石器時代遺跡の存在が確認されたことから、事業主と埋蔵文化財保護に関する協議を行い、第１号トレンチ西側及び第１号グリッド周辺については、計画変

更により盛土保存することとし、合意に基づき開発事業申請及び工事実施設計が変更され、造成工事に際して工事立会を行うこととなった。

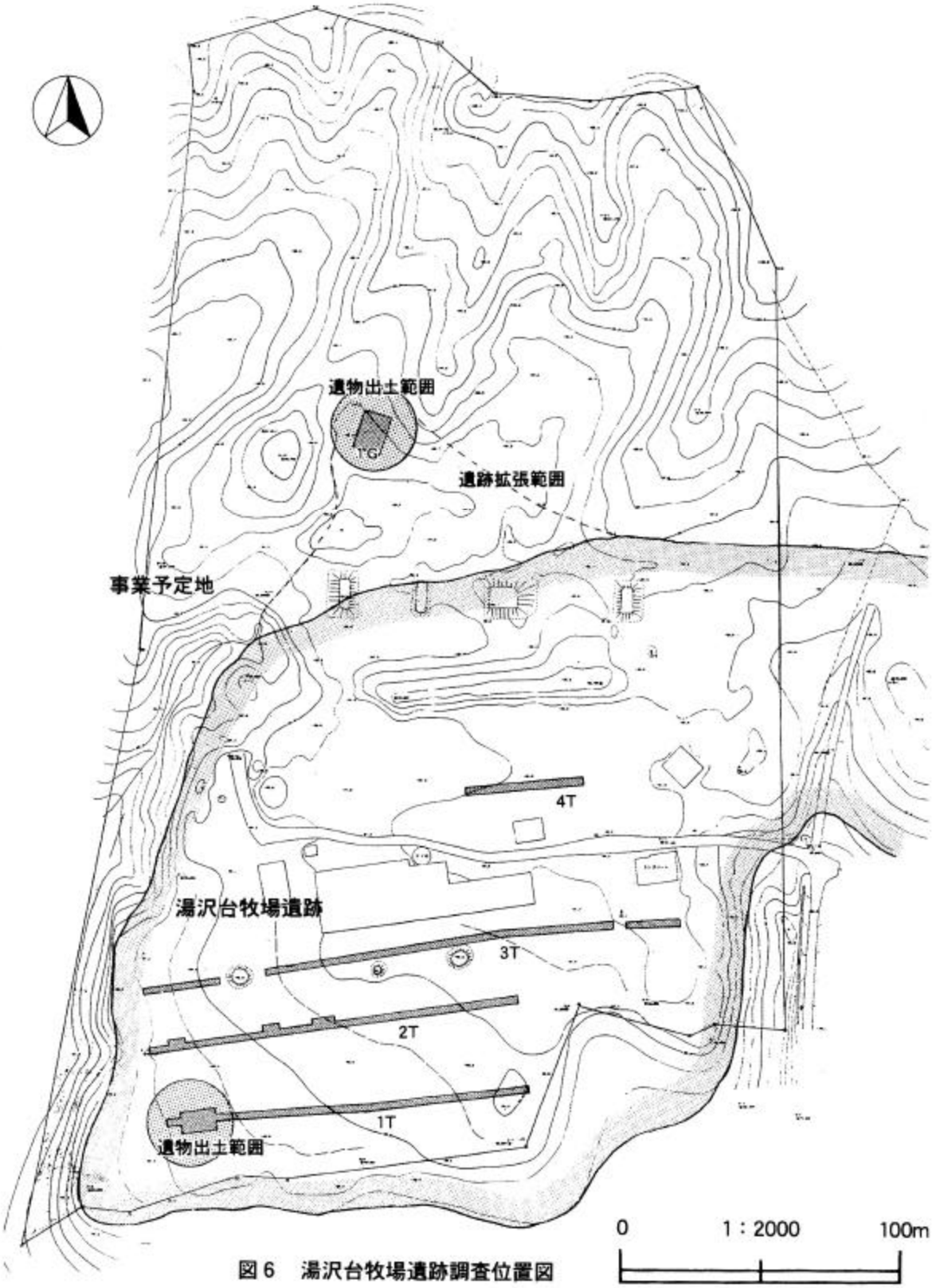
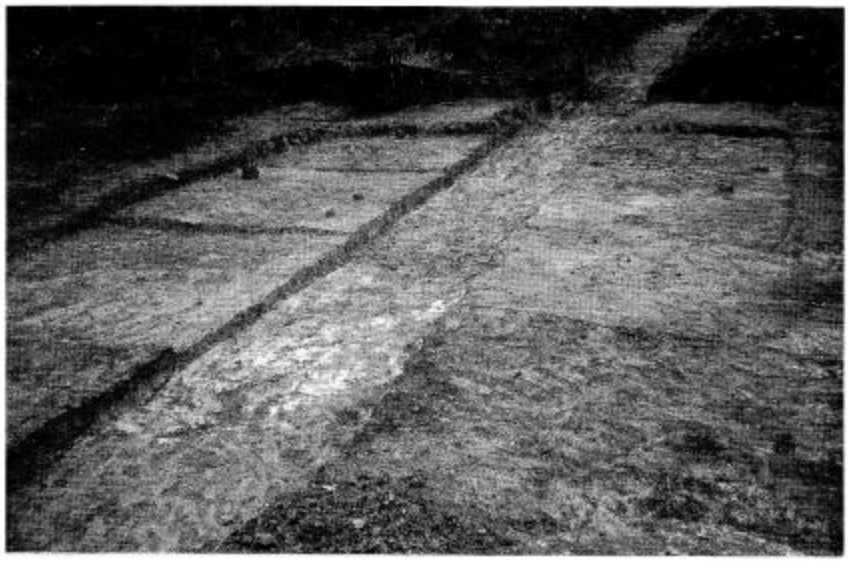


図6　湯沢台牧場遺跡調査位置図

調査地南側全景

第２号トレンチ調査状況

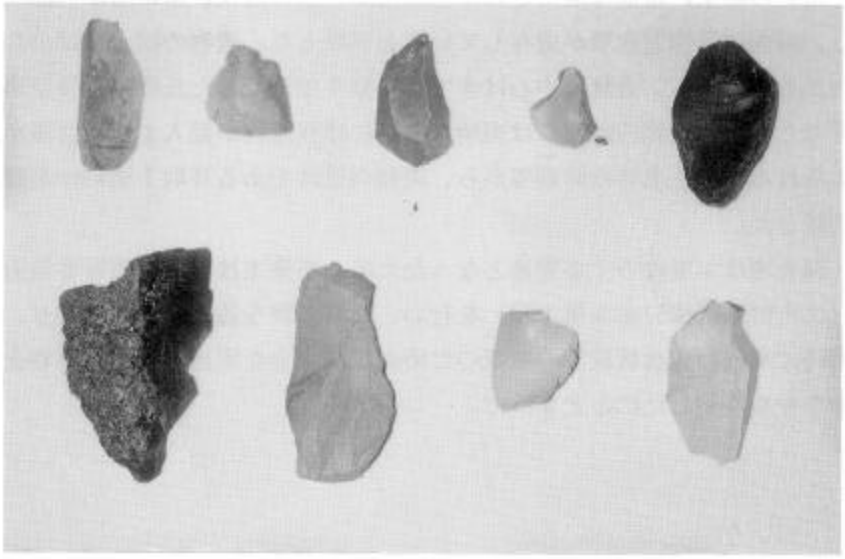


第１号トレンチ西側
石器剥片出土地点

写真３

第１号トレンチ西側
石器剥片出土状況

第１号グリッド調査状況



出土遺物
（石器剥片）

写真４

（6） 下新城長岡地区道路建設工事予定地（耳取Ⅰ遺跡）

1　**調 査 地**　秋田市下新城長岡字耳取地内

2　**調査期日**　平成12年11月21日～11月22日

3　**調査面積**　90m²（調査対象面積 約1,825m²）

4　**起因事業**　緊急地方道路整備事業道路改良工事（市道飯島金足線建設）

5　調査に至る経緯

秋田市建設部道路建設課は、付近に遺跡が所在する下新城長岡字耳取地内に道路建設工事を予定していることから、秋田市教育委員会との間で事前協議が行われた。協議の結果、平成12年11月２日付けで秋田市教育委員会に埋蔵文化財事前調査の依頼があった。

分布調査による現況確認の結果、工事予定地の一部で遺物が採集され、地形等からも遺跡存在の可能性があると判断されたため、試掘調査を実施した。

6　立地と現況

工事予定地は、秋田市の北部に位置する金足の小泉潟（女潟）西岸付近で、標高９ｍから18mの地点である。現況は山林・荒地・宅地・水田である。周辺には弥生土器が採集されている耳取Ⅰ遺跡や潟向Ⅲ遺跡（弥生時代）、縄文土器が採集されている耳取Ⅱ遺跡（縄文時代）が所在している。

7　調査の概要及び結果

調査地は、分布調査の結果に基づき、工事予定地のうち遺物が採集された耳取Ⅰ遺跡に近接する小丘陵を対象とした。

調査は、削平・土取りなどを受けていない北側斜面に東西方向に幅1.2mのトレンチを２本、幅1.5mのトレンチを１本、また、斜面に沿って南北方向に幅1.2mのトレンチを１本設定して、バックホーと人力により試掘し、遺構・遺物の有無について確認した。

調査地の基本層序は、第Ⅰ層 暗褐色土（表土・10～20cm）、第Ⅱ層 黒褐色土（遺物包含層・15～35cm）、第Ⅲ層 暗褐色砂（遺物包含層・15～40cm）、第Ⅳ層 黄褐色砂（地山飛砂層）である。

調査の結果、遺構は検出されなかったが、第Ⅱ層及び第Ⅲ層から縄文土器片と弥生土器片が出土し、斜面に遺物包含層が遺存していると判断した。遺物の出土量は少なく、遺物出土状況もまばらであることから、遺跡の中心はすでに土取りで消滅した丘陵南側及び南東側に近接する耳取Ⅰ遺跡と考えられ、北側の斜面には当時の生活に伴う遺物が混入する包含層が二次的に堆積したものと考えられる。出土遺物の時期等から、周知の遺跡である耳取Ⅰ遺跡の範囲が北西側に広がったものと判断した。

調査地は年度内の工事実施となったため、事業主は秋田県教育委員会への埋蔵文化財発掘の届出（文化財保護法57条３第１項）を行い、それに伴う通知の指示により、秋田市教育委員会が造成工事時に遺物の包含状況等の確認のために工事立会を実施した。工事立会では遺構は確認されず、遺物を少量採集したにとどまった。

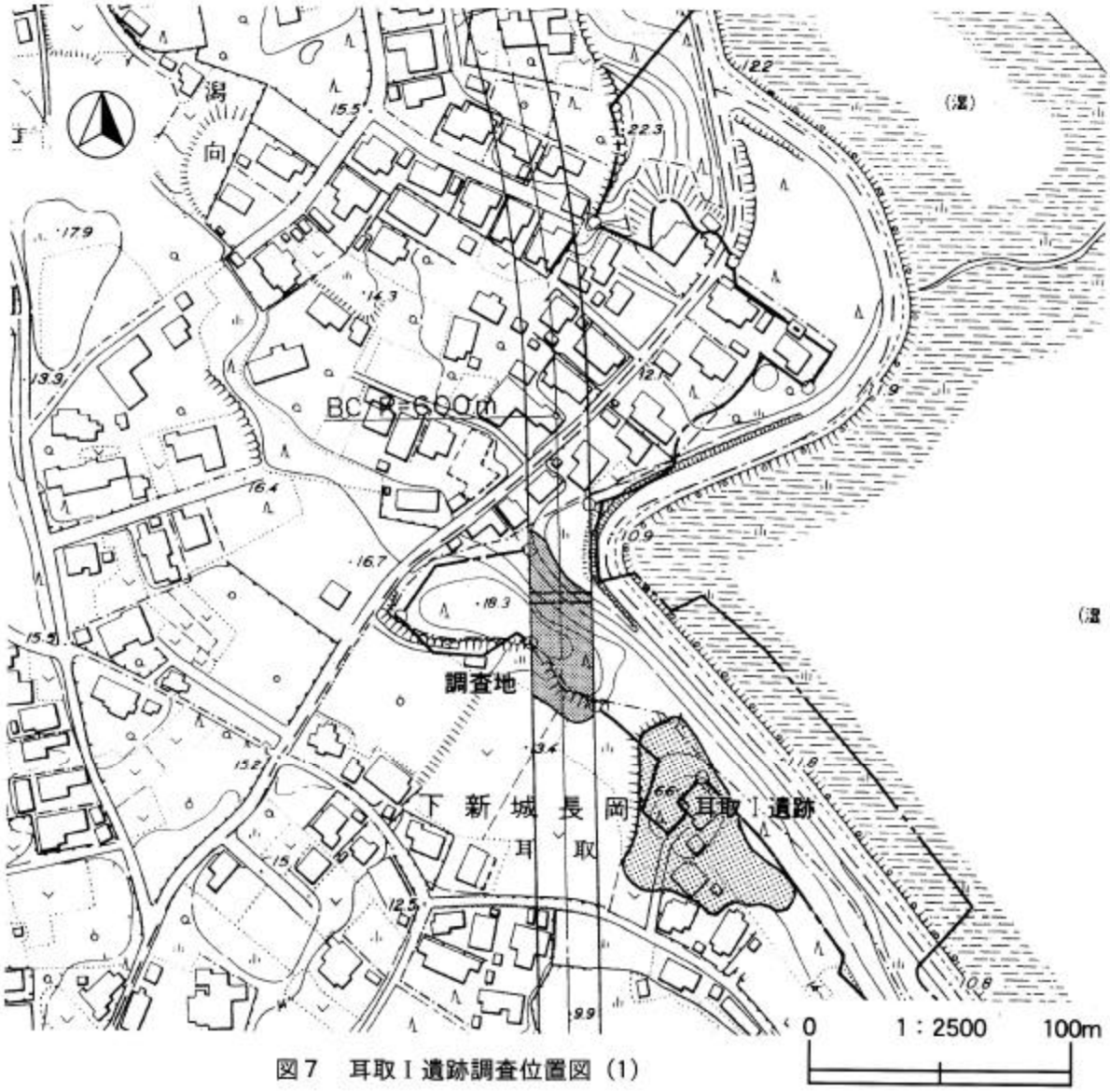


図7　耳取Ⅰ遺跡調査位置図（1）

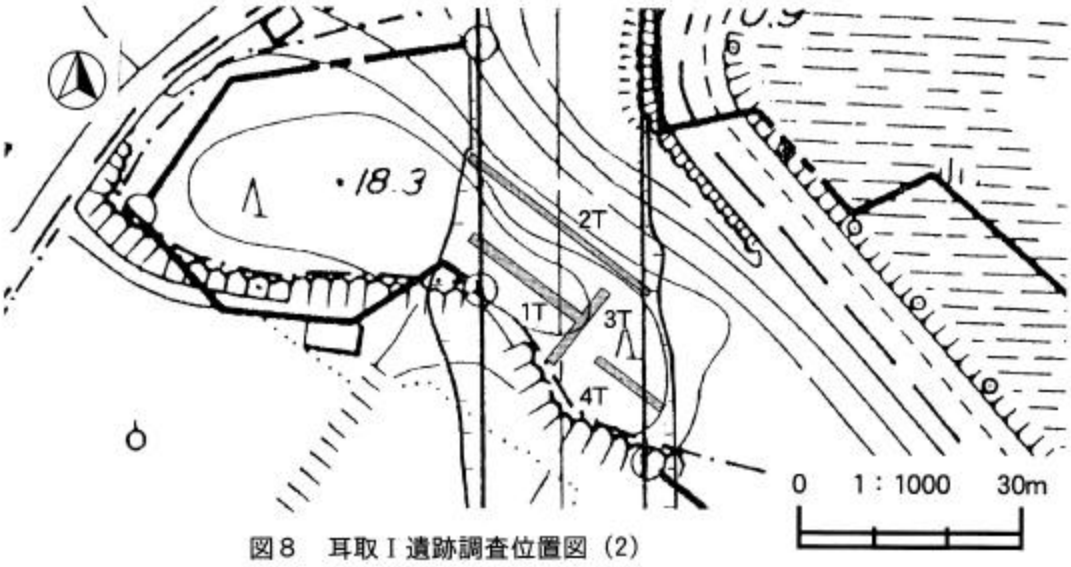
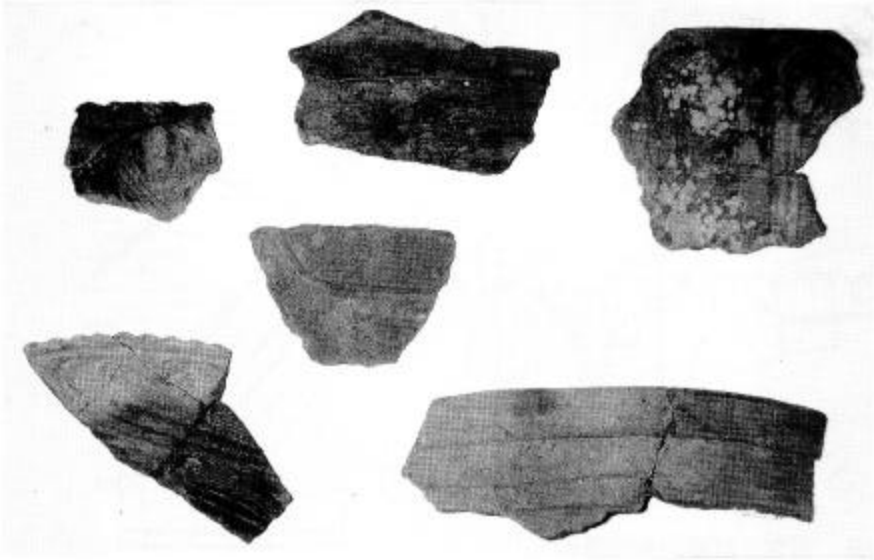


図8　耳取Ⅰ遺跡調査位置図（2）

調査地全景

第１号トレンチ調査状況



出土遺物
（縄文土器）

写真５

（7） 下新城西部地区圃場整備事業予定地（長岡遺跡）

1　**調 査 地**　秋田市下新城長岡・青崎・小友地内

2　**調査期日**　平成12年11月28日～12月２日・12月25日

3　**調査面積**　2,568.60m²（調査対象面積 約608,000m²）

4　**起因事業**　下新城西部地区担い手育成基盤整備事業（圃場整備事業）

5　調査に至る経緯

秋田県秋田総合農林事務所は、下新城西部地区一帯（下新城長岡・青崎・小友・岩城・笠岡・中野）の水田に担い手育成基盤整備事業として大規模な圃場整備を予定していることから、秋田市教育委員会との間で事前協議が行われた。協議の結果、平成12年10月30日付けで秋田市教育委員会に埋蔵文化財の事前調査の依頼があった。

分布調査による現況確認の結果、事業予定地は周辺に遺跡が存在することや地形等から遺跡存在の可能性があると判断されたため、試掘調査を実施した。

6　立地と現況

事業予定地は、秋田市の北部に位置し、秋田平野北部（新城川低地）を東から西に流れる新城川中流域北側の沖積地である。現況は水田である。

事業予定地の東部には蚕沢遺跡（縄文・奈良・平安時代）、塩田沢遺跡（奈良・平安時代）、羽田台Ⅱ遺跡（奈良・平安時代）が近接し、また西部には長岡遺跡（奈良・平安時代）、熊野田遺跡（縄文・奈良・平安時代）が近接し、周知の遺跡の多い地区である。

7　調査の概要及び結果

調査は、平成11年に事前調査を行った地区を境として、大きく東部地区と西部地区に分けて行った。事業予定地に対して東西方向に、幅1.8m、長さ５～10mのトレンチを東部地区に15本、西部地区に34本の計49本を設定し、バックホーによって試掘し、遺構・遺物の有無について確認した。なお、調査対象地が広域であることから、特に周知の遺跡に近接する部分についてはトレンチ数を増やして対応した。

調査地の基本層序は、第Ⅰ層 暗褐色土（耕作土・15～20cm）、第Ⅱ層 褐灰色土または灰褐色土（造成土・25～55cm）である。最下層である第Ⅲ層の地山については場所により異なっていた。西側と東側の丘陵辺縁部に近い第１号～12号トレンチ、第17号～18号トレンチ、第24号～27号トレンチ付近では青灰色粘土であり、それ以外の南寄りの各トレンチでは、黒褐色植物遺体層であることから、丘陵縁辺部に近い所は微高地で、南側は低湿地・湖沼の広がりといった旧地形が確認された。なお、第Ⅱ層の造成土は、昭和25年頃に行われた圃場整備の際の造成土と考えられる。

調査の結果、西側丘陵縁辺部に近い第16・24A・B・C・D、25B・C・27(西側)号トレンチでは、第Ⅱ層と最下層の地山粘土の間に第Ⅲ層として５～25cmの黒褐色土の遺物包含層が確認された。遺物包含層からは多量の土師器・赤褐色土器・須恵器片が出土した。また、第24C・25C・26号トレンチからは、地山面より遺構として土坑・溝跡・柱穴が検出された。遺物包含層を及び遺構が確認された第26号トレンチ部分は、旧地形では低湿地に張り出した微高地であったと考えられ、昭和25年頃に行われた圃場整備の際に一部削平されたと考えられる。この部分は、出土遺物や地形等から、近接する「長岡遺跡」の範囲が広がったものと判断した。

なお、東部地区の第２・６・７・10号トレンチでは少量の土師器・赤褐色土器片が出土したが、

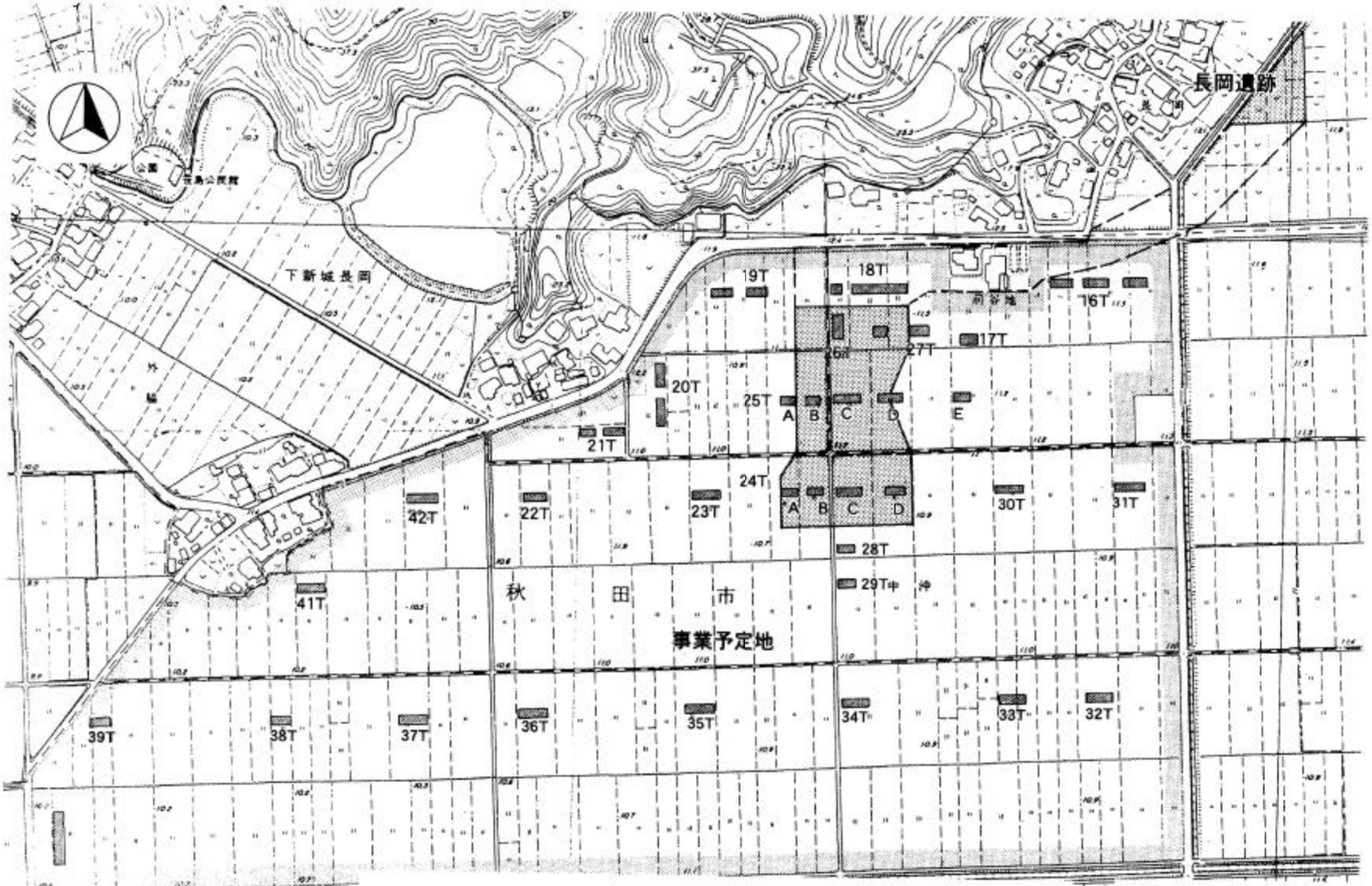


図９　下新城西部地区圃場整備事業予定地調査位置図（1）

0　1：4000　100m

図10　下新城西部地区圃場整備事業予定地調査位置図（2）

第II層の造成土からの出土であり、造成時に二次的に混入したと考えられる。

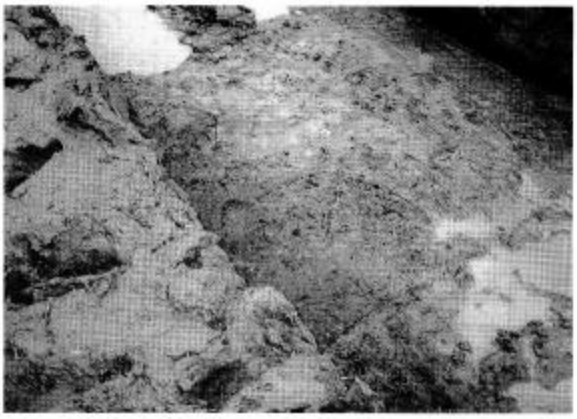
調査結果に基づき、事業主と埋蔵文化財保護に関する協議を行い、長岡遺跡の広がりが確認された範囲（3,200m²）のうち南側については盛土保存することとし、やむをえず工事により削平を受ける北側の2,200m²と南側水路部分の650m²の計2,850m²については本調査を実施して遺跡を記録保存することとした。本調査は平成13年度に実施する予定である。

調査地調査状況

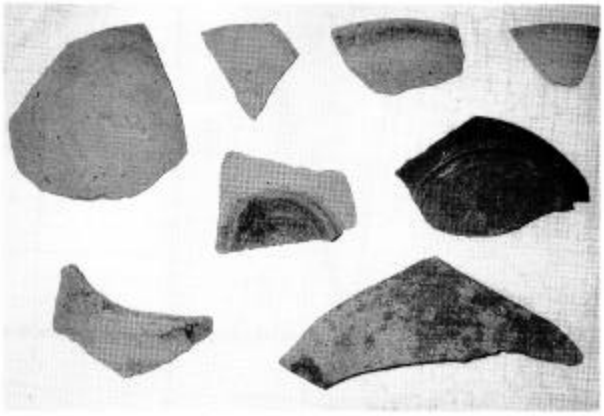
第24C号トレンチ遺物出土状況

第26号トレンチ調査状況

第24C号トレンチ遺物出土状況（拡大）



第25号トレンチ遺構（土坑）検出状況



出土遺物（須恵器・土師器・赤褐色土器）

写真6

（8） 上新城道川地区林道建設工事予定地（遺跡存在可能性地）

1　**調 査 地**　秋田市上新城道川地内

2　**調査期日**　平成12年12月５日～12月７日

3　**調査面積**　62m²（調査対象面積 約7,400m²）

4　**起因事業**　ふるさと林道緊急整備事業 林道「愛染線」建設工事

5　調査に至る経緯

秋田市農林部林務課は、ふるさと林道緊急整備事業として上新城道川地内の山林に林道建設工事を予定していることから、秋田市教育委員会との間で事前協議が行われた。協議の結果、平成12年11月16日付けで秋田市教育委員会に埋蔵文化財の事前調査の依頼があった。

分布調査による現況確認の結果、工事予定地の一部については、周辺に遺跡が存在することや地形等から遺跡存在の可能性があると判断されたため、試掘調査を実施した。

6　立地と現況

工事予定地は、秋田市の北部、上新城地区を流れる新城川の支流である道川右岸の上新城丘陵西側斜面である。現況は山林・荒地である。周辺には牛沢遺跡（奈良・平安時代）、雷Ⅰ遺跡（奈良・平安時代）が所在している。

7　調査の概要及び結果

工事予定地のうち、西側の台地状になっている平坦部分を中心に幅１ｍのトレンチを５本設定して、人力により試掘し、遺構・遺物の有無について確認した。

調査地の基本層序は、西寄りの低い位置にあたる第１号トレンチで、第Ⅰ層 暗褐色土（表土・約30cm）、第Ⅱ層 黄褐色粘土と炭化物が混入した褐色土（旧畑地造成土・25～50cm）である。地山は東部と西部が黄褐色粘土、中央部が黒褐色土のスクモ層であることから、旧地形は中央部が沢

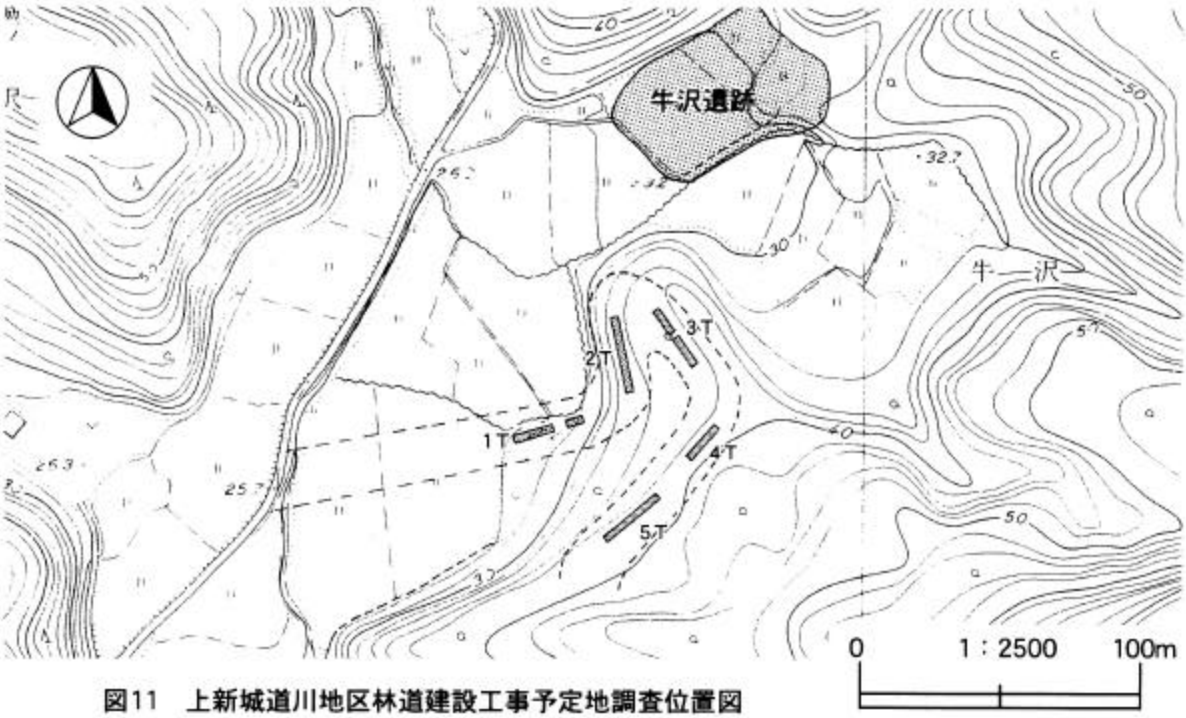
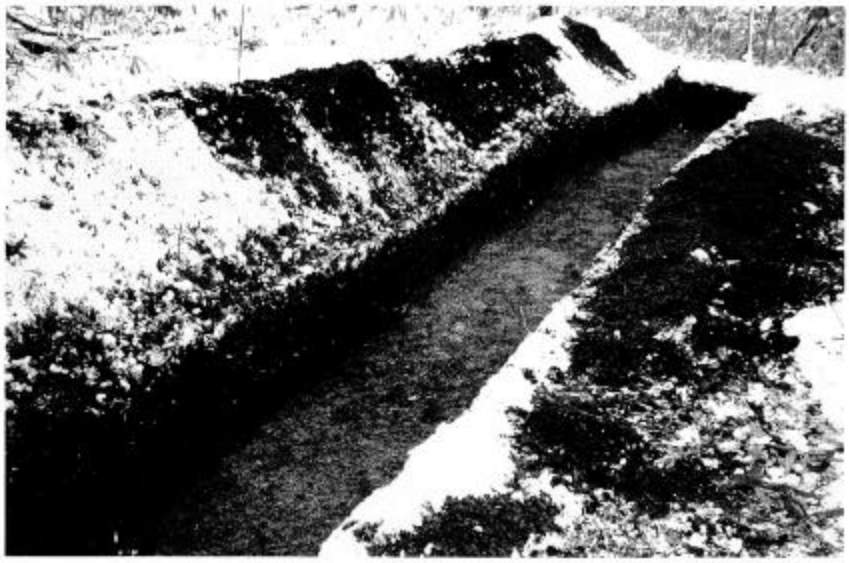


図11　上新城道川地区林道建設工事予定地調査位置図

地になっていたことが確認された。東寄りの一段高い丘陵側の第２号～５号トレンチは、第Ⅰ層 暗褐色土（表土・20～25cm）、第Ⅱ層 黒褐色土（自然堆積層・15～25cm）、第Ⅲ層 黄褐色粘土（地山）である。遺物包含層は確認されず、地山面にも遺構は確認されなかった。また、遺物も発見されなかった。

調査の結果、調査地では遺構・遺物は発見されず、遺跡は存在しないものと判断した。

調査地全景



第５号トレンチ調査状況

写真７

（9） 下新城長岡・中野地区道路建設工事予定地（遺跡存在可能性地）

1 **調 査 地** 秋田市下新城長岡字毛無谷地、下新城中野字屋越地内

2 **調査期日** 平成12年12月11日

3 **調査面積** 202.5m² （調査対象面積 約19,000m²）

4 **起因事業** 緊急地方道路整備事業道路改良工事（市道飯島金足線）

5 調査に至る経緯

秋田市建設部道路建設課は、付近に遺跡が所在する下新城長岡字毛無谷地及び下新城中野字屋越地内に道路建設工事を予定していることから、秋田市教育委員会との間で事前協議が行われた。協議の結果、平成12年12月4日付けで秋田市教育委員会に埋蔵文化財の事前調査の依頼があった。

分布調査による現況確認の結果、工事予定地については、周辺遺跡の存在や立地等から遺跡存在の可能性があると判断されたため、試掘調査を実施した。

6 立地と現況

工事予定地は、秋田市の北側、秋田平野北部（新城川低地）を東から西に流れる新城川中流域北側の沖積地で、標高約9mの地点である。現況は水田である。周辺には、乳倉遺跡（奈良・平安時代）、嶋下り遺跡（奈良・平安時代）が所在している。

7 調査の概要及び結果

調査は、事業予定地全域に南北方向に幅1.5mのトレンチを8本設定して、バックホーにより試掘し、遺構・遺物の有無について確認調査を行った。

調査地の基本層序は、第Ⅰ層 褐色土（耕作土・15～20cm）、第Ⅱ層 灰褐色土（造成土・15～20cm）、第Ⅲ層 褐灰色土（造成土・30～60cm）、第Ⅳ層 黒褐色土・植物遺体混じり（自然堆積層）、第Ⅴ層 灰白色粘土（地山）である。第5号トレンチ周辺のみ旧地形が微高地であったことから、第Ⅱ層 暗褐色砂質土（造成土・20～25cm）、第Ⅲ層 褐灰色土（造成土・0～40cm）、第Ⅳ層 黒褐色砂質土・植物遺体混じり（自然堆積層）、第Ⅴ層 黄褐色砂（地山飛砂層）である。遺物包含層は確認されず、地山面にも遺構は確認されなかった。また、遺物も発見されなかった。

調査の結果、遺構・遺物は発見されず、遺跡は存在しないものと判断した。

北側調査地全景

第2号トレンチ調査状況

写真8

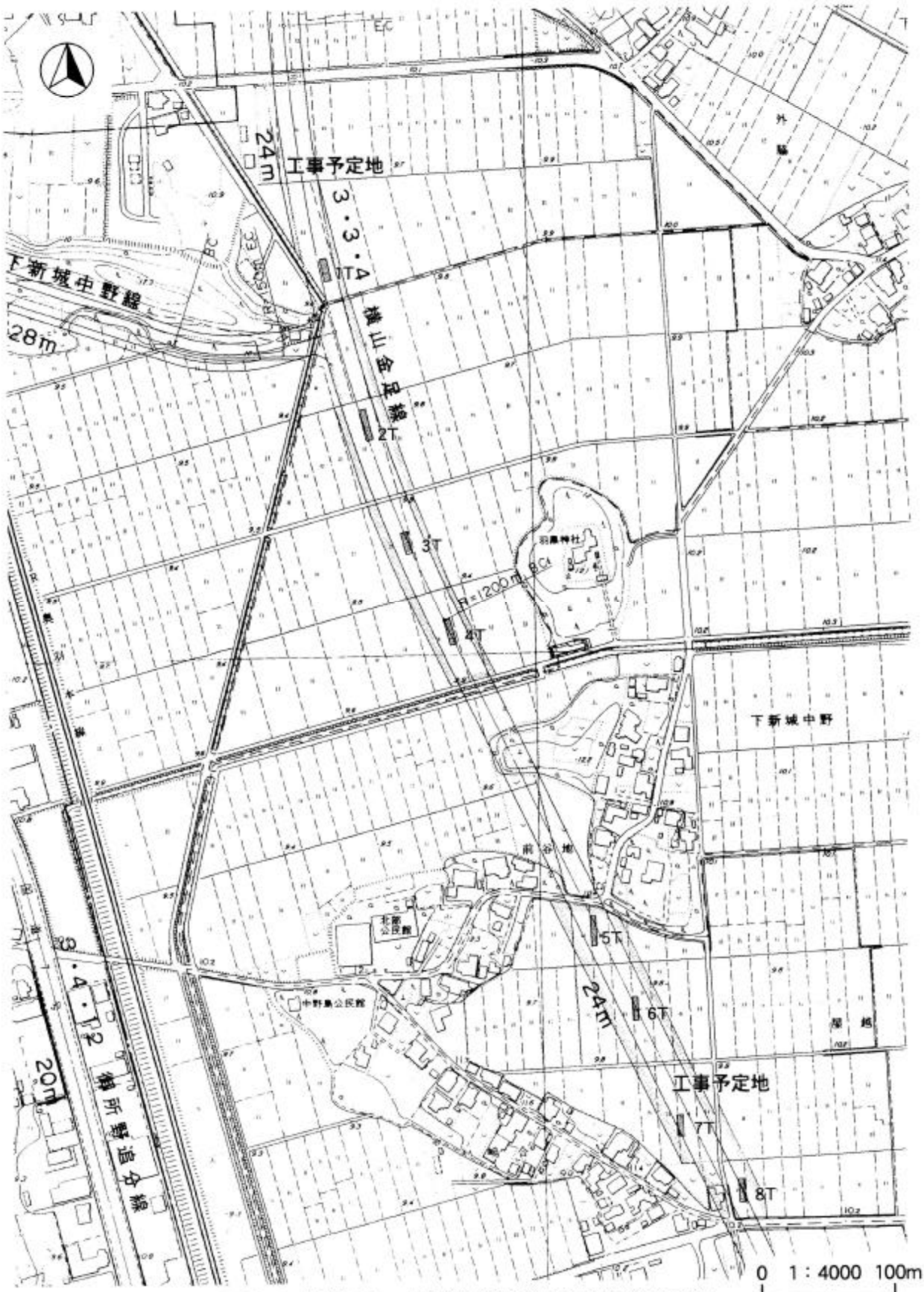


図12　下新城長岡・中野地区道路建設予定地調査位置図

報告書抄録

ふりがな	しないいせきしょうさいぶんぷちょうさほうこくしょ
書名	市内遺跡詳細分布調査報告書
副書名	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	安田忠市・伊藤武士・中川宏行
編集機関	秋田市教育委員会
所在地	〒010－0951　秋田県秋田市山王二丁目1番53号　山王21ビル内
発行年月日	2001年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 (m²)	調査原因
開発予定地	寺内字焼山（てらうち やけやま）	05201	—	39度44分14秒	140度4分39秒	20000608～20000609	178	老人ホーム改築に伴う試掘調査
蛇野	広面字推子（ひろおもて すいこ）	05201	219	39度43分26秒	140度8分30秒	20000621	44	携帯電話用鉄塔建築に伴う確認調査
寺庭Ⅰ	太平寺庭字寺庭（たいへいてらにわ てらにわ）	05201	205	39度44分8秒	140度13分29秒	20000901	27	住宅新築工事に伴う確認調査
開発予定地	広面字谷内佐渡ほか（ひろおもて やないさと）	05201	—	39度43分40秒	140度9分37秒	20000927～20000928	406	団地造成に伴う試掘調査
湯沢台牧場	添川字湯沢（そえがわ ゆざわ）	05201	244	39度45分50秒	140度9分30秒	20001114～20001116	947	ゴルフ場造成に伴う確認調査
耳取Ⅰ	下新城長岡字耳取（しもしんじょうながおか みみとり）	05201	43	39度48分35秒	140度3分56秒	20001121～20001122	90	道路建設に伴う試掘調査
長岡	下新城長岡字長岡ほか（しもしんじょうながおか ながおか）	05201	62	39度48分11秒	140度4分35秒	20001128～20001130	2,568	圃場整備に伴う試掘調査
開発予定地	上新城道川（かみしんじょうみちかわ）	05201	—	39度46分57秒	140度8分16秒	20001205～20001207	62	林道建設に伴う試掘調査
開発予定地	下新城長岡・中野（しもしんじょうながおか なかの）	05201	—	39度47分58秒	140度4分3秒	20001211～20001207	203	道路建設に伴う試掘調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
湯沢台牧場	遺物包含地	旧石器	包含層	旧石器(剥片)	
耳取Ⅰ	遺物包含地	縄文～弥生	包含層	縄文土器、弥生土器	
長岡	遺物包含地	平安	掘立柱建物跡、土坑、溝	須恵器、土師器、赤褐色土器	

市内遺跡詳細分布調査報告書（平成12年度）

印刷・発行　平成13年3月
発　　行　秋田市教育委員会
文化課
〒010-0951　秋田市山王2丁目1番53号
山王21ビル内
TEL 018-866-2246　FAX 018-866-2545
印　　刷　合資会社　秋田城南印刷